
我楽多日記

みやき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我楽多日記

【ZPDF】

201810

【作者名】

みやわ

【あらすじ】

引っ越ししてきた、とんでもない、お隣さんのお話

初めての隣人

6月1日

私の住んでいる所は、住宅地とは言えないがまあ一般的な街中の居住用マンション、テナントも入っていない。

小学生のいる家族や新婚さんが多く、一人暮らしは私くらい。

ワンフロアに2戸、総数16戸、空き部屋が3戸ぐらいある。

最上階には大家さんも住んでいる。

別に私の住まいを「紹介したい訳ではありません。

空き家の1戸に引っ越ししてきた住人について不思議な事が???

それも私の家の真横に住まいとしてでは無く、建設業の事務所が入ってきたのですが・・・。まったく似つかわしくない人々が

日々出入りしている???

6月8日

お隣さんが越してきてから・・・
マンション前に異様な車が止まる様になつた。
大型の外車から、国産の高級車、

軽のワゴン車まで、色々な種類の車が
道路のアチコチに違法駐車されている。

それも何故か？ナゼか？なぜか！

窓には真っ黒のフィルムが張つてある。

建築関係のはずなのに、

トラックとかは見たことが無い・・・

男性社員らしき人が出入りしているが、

皆な黒っぽいスーツ姿で

作業着を着ている人は一人も居ない・・・

摩訶不思議である。

時間的にも少し変？

普通、会社というのは8時とか9時に始まり
6時とか7時に帰れると思っていたが・・・

お昼過ぎ、それも2時を回った位から出勤して来るようだ。

私はお勤めに出たことは無いが、そんな会社ってあるのかな？

6月15日

お隣の皆さんには、ほんとに良く働いているようだ、

夜中の2時から朝方の5時前まで

『お疲れ様』の声が聞こえる。

まるで新聞屋さんのよう・・・

夕方からは男性社員の方が慌ただしく出掛け出す。

出掛けたかと思うとすぐに帰ってきて、また出掛ける。

それが夜中まで続く、

まるで何かを配達するのが仕事のよう、
真っ黒のフィルムを張った車で・・・

時々、女子社員の方にも遭遇する。

会社の規則が厳しいのか、エレベーターを待つていても
隣人の私に会うと、「エレベーター」と譲ってくれて、
乗らずに階段を降りて行く。

男性社員の方と一緒にいる時も私が見る限り階段を使う、
かなり健康に気を使う会社なのだろうか？

6月22日

梅雨なのに雨の降らない日が続いたかと思いつと
バケツをひっくり返したような雨！

なにげに、お隣の玄関前を見ると・・・
色とりどり、十何本の女性物の傘が・・・
えつ？事務員さんがこんなに多勢居た？

今日は会議？面接？リクリエーション？茶話会？何々？

私の経験では女子が10人以上集まると、かなり騒がしい。
でも、お隣は静か・・・
このマンションは、かなり防音効果が高いのか？

と、思つていると・・・男性の話し声が・・・うん？

それもかなり大きなボリューム・・・

『はい、はい、ありがとうございます。はい大丈夫です！』

あつそうか、携帯入りにくいから玄関前で電話してるのが。
エレベーター前は、声が筒抜けになる事を初めて知った！

そして真夜中、またまた話し声が・・・
聞くとは無しに聞こえてくる男女の会話、

女性のほうがキイが高く、男性の声はあまり聞き取れなかた
約束が違う！とか、ちゃんととして欲しい！とか

女性が一方的に怒っているようだ・・・

仕事上のトラブルかもしませんが、こんな時間に近所迷惑ですよ。

6月29日

今日も1日中雨・・・
乾かない洗濯物がソリソリ吊つてある・・・

明日晴れるといいな～なんてぼんやりしていると
「ピンポーン・ピンポーン」とチャイムの音

こんな夜中それも雨の中誰が来る・・・

出前・・・頼んでない、
宅配・・・覚えがない、
集金・・・お金がない

とりあえずインターへんに出る、

「はい」・・・返事がない・・・間違いかな・・・

しばらくすると「ピンポーン・ピンポーン」
とまたチャイムの音

「はい」・・・また返事がない・・・

ストーカー？いたずら？

あつしーーー！ピンポンダッシュ！ーーー！
でも、ここはオートロック、マンションの玄関前では
ピンポンダッシュの意味ない・・・不思議・・・

でも気持ち悪いから、もう寝てしまおうと。

7月6日

久しぶりに、ゆっくりと時間が取れた。

タイミング良く、夕方友達のヒロが遊びに来た。

部屋に入るなり「お隣さんデリバリー？」
「デリバリー・・・ピザ？寿司？・・・とにかく出前

「つかも何か取る？」

「じゃ無くてお隣さんの仕事がデリバリー？」
「お隣さん？？？建築関係みたいだけど？」
「・・・建築・・・関係？！」

ヒロはお隣さんに興味があるみたいで、色々聞き始めた
私は、お隣さんが引っ越して来てから今までの様子を話した。

「もう3ヶ月近くになるのに、毎日家に居て気が付いてないの？」
「気が付く・・・何に・・・？不思議がる私に
「」の前来た時もそうだったけど、お隣さんイケメン揃ってるし
・・・そういうえば、うちのスタッフも・・・

「お隣さんメチャカツ「良い人多いですよー。」とか喜んでた記憶が・・・イケメンとデリバリーが、どう繋がる???

ヒロと話し込んでいると「ピンポーン・ピンポーン」チャイムの音

「はい」・・・

「すみません、ゴリカです。」

インター ホン越しに女性の声

ゴリカ?・・・「ヒロ、ゴリカさんて知り合い?」

「知らない、間違いやない、」

どちらのゴリカさんですか?

と聞こうとすると、もうインター ホンが切れている。

「やっぱり間違いみたい。」

私は夜中のピンポンダッシュを思い出した。

「へへ、じゃ今度鳴つたら私が出る!」

何が楽しいのか、いたずら坊主のようにな笑っている。

二人は、最近観た映画、高校野球、
ネイルアートの話なんかしながら
デリバリーの点心をパクついていた。

「ここ結構美味しい!」

新装開店のはじめのお店、胡麻団子が甘過ぎず、おいしい!

「ピンポーン・ピンポーン」ヒロがインター ホンに飛び付いた。

「はい」・・・「アキナです。」

「お疲れ様」ヒロはエントランスのロックを外し

玄関のドアスコープに張り付いてしまった。

・・・何が始まるんだ・・・?

「しつ！」犬でも追つ払つようこ、左手を振る。

何なんだこいつ・・・ここには私の部屋なのに・・・

「見てござらん」小声で言つて私にスコープを覗かせた。
ちょうど女の子が隣の部屋に入つて行くところで
今風のイケメンが後ろに続き、一人が中に消えた。

「やつぱりね！どう、わかつた？」「何が？」

「だから、お隣さんのショウタイ！」

「ショウタイ？招待？小隊？SHOW TIME？」

「本性、ほんとの姿、化けの皮が剥がれたの。」

・・・・・

「さつきのが、アキナさん。」

・・・・・

化けの皮・・・隣は、妖怪屋敷？アキナさんはネコ娘？？？

・・・・・

「要するに、デリヘル嬢つて事かな。」

・・・・・日本語が理解できない・・・・・

私の頭は急回転で動き始めた！

そうか！それで！そうだった！

でも何で？このマンションに妖怪屋敷・・
じゃない・・ヘルスクラブがあるんだ？それも隣に？
ここは歓楽街からは程遠いはず・・・

感情が？？？を通り越して！――になつて來た。

大家さんに抗議してやる！

風俗の隠れ家がお隣さんなんて！絶対嫌だ！

「今日、泊つて行く？」

「帰らうかと思つてたけど、面白そうだから泊る
何てやつだ、人の不幸を喜ぶなんて！
でも居てくれたほうが心強いから言わない。

「珍しいよ、こんな体験できるなんて。他に何が無かつた？
他にと聞かれても・・・思い出せる限り考えてみた。

その間に何度もYは嬉しそうにアスコープを覗きに行つた。

「先にお風呂入る？」

「私のほうが早いもんね、タオル勝手に出すよ。
タオルどころか、私のお気に入りのTシャツに短パン
おーパーの下着まで抱えてバスルームに入つていつた。
・・・まあ・・・いつもの事だけど・・・

ヒロがバスタオル姿で戻つて来た

「忘れ物？」

聞いてる私の手をつかみ、何も言わずにバスルームへ引っ張つて行
く
えつえつ？？私そんな趣味ないし・・・言おうとする私に
「しつ！」怖い顔で睨む。

「こつもありがとうござります。丁度良ことひこお電話頂きました。

・・・

「はい、新しい子が今日入りまして。」

「可愛いですよ、身長168センチで48キロ

・・・細い・・・

「上からりの〇、56、88、歳は23です。」

・・・モテルか?・・・

「はい、もうすぐ来ますので何処にも出しません。」

・・・監禁?・・・

「わざわざすー少しお待ち頂ければ、必ずー」

・・・・・

「あつがとつじれこます。いつもの所へ、はい、あつがとつじれこ
ます。」

・・・丁寧な営業・・・

「面白いー。」

ヒロはサッサと服を脱いで、お風呂に入つていった。

法治国家である現在の日本、

歓楽街にソープランドも多く、遊郭もある。

売春、買春の摘発をされているコースもよくみかける。

風俗店らしき入り口の前には肌を露出して

ほとんどアラムちゃん状態の女の子が立っている。

そういうえばつい最近、そのラムちゃんがおまわりさんを
追いかけられているのを見たな、何をしたんだりう?・

繁華街には、ショッピングを楽しむ人たちに紛れ、
それらしい女性が、それらしいファッショングで
それらしい姿で、それらしく昼間から立っている。

深夜には、13・4歳にしか見えない外国の女の子が地下鉄の駅近くで、前を通りていく男性に

「マッサージ、ドゥ「デスカ?」「ヤスイヨ~」

と声を掛けている・・・

そして・・・うちのお隣さんは・・・デリヘルハウス

入れ替わりにお風呂に入っていると女性の話し声が聞こえてきた。

「今日・・・どうだつた?」

「まあまあかな~・・・だつたから」

「そう、私は今から・・・」

「・・・そう、頑張つてね」

よく聞き取れなかつたが、こんな夜中に出動のようだ、

彼女たちは夜中が忙しいんだ。

「お待たせ、行こうか今日も頑張つてね。」

これは、デリヘル配達のイケメンの甘い声。

香氣にしている場合じやない!

明日、大家に文句言つてやる!――!

「ちよつとー!」

えつ?なに?

「ちやんと払つてよ!何よこれ!馬鹿にする!~!」

またまた女性の声・・・

「ふざけないでよ!」

「何怒つてんの？」

・・・これはイケメン

「じいりっぽくれて！」

「落ち着いて、落ち着いて」

「2件で7万の約束でしょ！3万5千つトビツヒーリー。」

・・・半額セール？値切りすぎ？・・・

「何かの間違いだと思つから、明日ちゃんとするから機嫌直してね。」

・・・私は男の猫なので声は嫌い・・・もめるなら家の中でお願いします。

7月7日

朝から大家さんに電話をして、今までのお隣さんの様子を話した。管理会社に任せてあるが、確認しますとの事で少し安心。

早くじっか行つて欲しい・・・

午後、大家さんからの電話で

管理会社も調べてみない事には返事が出来ないと云つて来たらしい。

7月10日

早く調べてちゃんと対処してくれるように頼んだ。
が・・・2日たつても3日たつても返事がない。

朝、「二三を出しに行つた時、大家さんに会つた。

どうなつてゐるか聞いてもちやんとした返事がない・・・
ほんとうなら私よりも大家さんのほうが怒るべきではないか?
お隣さんにも、いい加減な管理会社にも、

人の良い大家さんなんだろう・・・私が管理会社に電話してやるー。

決心して受話器に向かつた、

「大家さんから聞いてると思いますが、お隣の件どうなりました?」「建築事務所での申し込みで書類も揃つてますので・・・」「はあ?書類じゃなくて実際に調べました?」「いえ・・・まだ・・・」ちらも忙しいもので・・・」「何の為にエントランスとエレベーターに防犯カメラが付いてるんですか?」「それは・・・」

「真夜中から朝まで不特定多数の女性が出入りする建築事務所つて事ですか?」「今、調べてますので、もう少しですね・・・」「結果が出たら知らせて下さい、何か事件が起きてからでは遅いですから!」

埒が明かない・・・少し様子をみよう・・・
つと思つていた矢先・・・

ヒロがまた遊びに來た、私よりもお隣に興味があつての事だけど。

「どうぞ!ーその後!?」

瞳が好奇心で輝いている・・・わかり易い性格かも・・・

私は大家さんと、管理会社の事を話した、

「それって、グルかもよ？！」

「グルって？」

「大家さんも、管理会社も知つてて、知らん顔」

・・・まさか・・・管理会社はともかく、大家さんまで・・・

「大家さん、ここの一一番上に住んでて気が付かないかな？」

・・そう言えれば・・そうかな・・まさか・・ね・・

「ピンポーン・ピンポーン」

「はい」

「すいません・・・あやかです・・・」

・・・また間違いだ、でもこの人泣いてるみたいだけど・・・

「違うと思います・・お隣じやないですか・・」

「あっすみません。」

よく謝る人、けど・・お隣で「すみません」て言つた人は、はじめてかも

「まだピンポン間違いあるんだ〜」

「うん、どんどん新人さん増えてるみたいかな。」

『ドーン！』『ガシャン！』『ドカーン！』

・・・? ? ? ? 何だ？この派手な音は？？？・・・

隣の部屋から聞こえてくる、壁に何かがぶつかって、

私の大好きなHIRO・YAMAGATAが傾いている・・・

ヒロと私は一人揃つて壁に耳をくつ付けていた。
～まさかにコップまでは持ち出さなかつたが、

お行儀はかなり良くない。

女性の泣き声・・・男性の怒鳴り声・・・

別の女性のヒステリックな叫び声・・・

別の男性の話し声・・・女性の泣き声・・・

男性の怒鳴り声・・・何かを叩き付けるような音・・・

『ドガーン！』また壁に何か飛んで来た！

一人は壁から飛び退いた・・・お隣で何か異変が・・・
恐る恐るもう一度壁に耳を当てたが、もう何も聞こえてこない。

「何だつたんだうねえ？痴話喧嘩かなあ？」

そこには救急車の音が近づいて来た！

「まさかでしょ？」

救急車の音は止まることなく何とか現象で通り過ぎていった。

「そりゃそりゃね～そんな訳無いわ～サスペンスじゃあるまいし～

（そう！一人ともだいのワイルド劇場好きです。）

「あつ今日のロードショウ何だつけ？」

「宇宙もんだつたと思うけど、新聞テーブルの下に有るよ

「スター・ウォーズか、前に観たけど、観ようつと

（そう！一人ともだいのSF好きです。）

お隣の事なんてすっかり忘れて

何度も観ている映画にダメ出しをしながらのおしゃべり。

もちろん！HIRO・YAMAGATAは壁から外して描きました。

「ピー・ピー・ピー・ピー」遠くで救急車の音がする

「事故多こよね～」

「ほんと、サイレンの音聞かない日無いもんね～」

「近づいて来るよ、このへんに救急病院有つたつけ？」

「無いと思うけどな～」

「止まつた！」Yがベランダに出て行つた。

・・・まさか・・うち？

「前に止まつた！救急隊の人がタンカ持つて入つて来る！」

・・・まさか・・私は、玄関のドアスコープを覗いた・・・

「大丈夫、上の階に行つたからお隣じゃないみたい。」

・・・ほんとうは、大丈夫とかじゃないけど・・・

ヒロと私は野次馬になりきつてベランダから
救急車にどんな人が運び込まれるのか見ていた。

タンカに乗せられていたのは22・3歳にみえる女性で
意識が無いようだつた。

玄関前の街灯に照らされた顔は青白く
オレンジ色のペディキューが何だか痛々しい
「どうしたんだろうね、若いのに」

・・・若くても病氣にはなる・・・

えつ？なんで？付き添つている女性に目が行つた

お隣の事務員さんだと思つていたデリヘルさんの一人だった

・・・でも、救急隊の人はお隣へは入つてない・・・
何で・・上の階から降りてきたんだ・・・

あれこれ考えている間に救急車は出て行つた。

部屋に戻ろうとした時

駐車場の影から人が出て来た・・・

救急車が出て行くのを待っていたようにみえる・・・

やつぱり！ そうだ、間違いない！

その影は『テリヘルのイケメン君』だつた。

お隣さんは、お隣だけではなく、上の階もお隣さんでもしかして最近空き部屋が無くなつたのは全部お隣さんなのか？ つてことは大家さんも管理会社も知つてゐるんだ。

「冗談じゃない！」

警察の何とか？ 相談窓口に電話した。

一般住宅に『テリヘル』が許されるのか！

今までの経緯を説明して理解を求めたが、
気の無い返事しか返つてこない・・・

大家に相談しろとか、管理会社に言つて下さい、
ばかりで、話にならない・・・

「何があつてからでは、遅いんです。」

「何があるんですか？」

・・・現に救急車も来てるじゃないか！

一般住宅に嘘の看板で入居して

『テリバー』ヘルスやつてるじゃないか！

まともな風俗店がそんな事する訳が無いでしょ？

「売春は法律で禁じられているんじゃ無いですか？」
「そうですが、お宅さん現場見たんですか？」

・・・なにそれ・・・現場・・・」こいつ絶対馬鹿だ！

「まあ、未成年者でも出入りしているような連絡下さい。

・・・何なんだ・何なんだ・・・その態度・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9181c/>

我楽多日記

2010年11月12日20時06分発行